

## 令和8年度 学校経営計画表

### 1 学校の現況

学校番号	中学10		学校名	県立水海道第一高等学校附属中学校				課程			学校長名	木村 功				
教頭名	川島 博之								事務室長名		北條 薫					
教職員数	教諭	11	常勤講師	2	養護教諭	1	非常勤講師	0	実習教諭	0	事務職員	5	技術職員等	4	計	23
生徒数	1年		2年		3年		合計		合計		合計		クラス数			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	16	24	20	20	20	20	56	64								
	40		40		40		120				3					

### 2 目指す学校像

学校生活全体を通して、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、そこから生まれる主体的な学びを支援、正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成に資する。

### 3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習および進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科指導において、生徒が主体的に学習に向かうような仕掛けや授業展開を行うことへの意識の高まりが浸透しつつある。</li> <li>・海高TO学習プログラム(高校生から勉強を教わる機会)を設定し、中高併設型のメリットを生かした学習指導を行っている。</li> <li>・スタディサプリEnglishを活用し、英語力の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を迎えての学習機会や語学研修を横断的な学びとする意識をもつことで、主体的に「自学」に向かう姿勢を養っていく。</li> <li>・ICT活用ははじめ学習意欲を高める創意工夫をし、主体的な自学自習、発展学習につなげる。</li> </ul>
基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じた継続的な個別面談を通して生徒理解を図り、基本的な生活習慣の確立に努めている。</li> <li>・毎月の生活アンケートの実施や個人面談を通して、課題の未然防止や早期発見対応に努める体制を整えている。</li> <li>・登校指導を通して、遅刻数の減少を図っている。</li> <li>・精神的なケアを必要とする生徒に対し、校内を組織化し外部機関との連携を図りながら対応に当たっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活を中心に家庭と連携し、「海高スタンダード」としての意識を持つことで基本的な生活習慣を確立させる。</li> <li>・メンタルヘルスクアを充実させるため、支援に対する理解を促進する。</li> </ul>
特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会主催の学年レクの実施等、各種委員会活動を通して生徒の主体性を育てている。</li> <li>・部活動加入率は82%であり、各種大会や文化的行事で活躍している。</li> <li>・市役所や企業との連携協力を総合的な学習の時間を中心に積極的に図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒運営へのサポートとリーダーシップ育成を援助し、さらに澁瀬とした行事になるようにしたい。</li> </ul>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりのため、広報活動の工夫を図り保護者や社会に向け発信している。</li> <li>・授業公開、学校説明会および定期的なホームページの更新を行い、本校教育の理解の促進を図っている。</li> <li>・探究活動の成果を学校外に発信する機会が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教育の理解促進や生徒募集に寄与できるよう、外部連携事業の公開や、PVのリニューアルを含め魅力度向上を目指す。</li> <li>・生徒が考えた地域課題を解決するための取組をさらに学校外へ発信する機会を設け、支援する。</li> </ul>
働き方改革について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校等時間における月平均時間が16時間37分、月平均45時間超過者割合が5.8%、月平均80時間超過者割合が0.0%であり、ある程度の成果は見られる。しかしながら、月平均45時間超過者へ定時退勤日や年休・時間休を活用するなど出退勤時間の工夫を行い、時間外勤務の削減を行う必要がある。</li> <li>・外部の企業や指導員の協力を積極的に取り入れながら、学校負担の軽減を目指す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌内での業務の分散により平準化を進める。</li> <li>・部活動の複数顧問体制により負担の軽減を図る。</li> <li>・適性検査、学力検査にまつわる負担の軽減を図る。</li> </ul>

### 4 中期的目標

生徒のやりたい、なりたいが、総合的な学習の時間や教科の授業等を通して絶えず発現し、主体的なプロジェクトとして校内に林立、教員が直接、あるいは外部の専門家をアサインするなど働き方を工夫しながらその学びを支援、その成果が進路にも人生にもつながっていくスーパークリエイティブスクール

## 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習指導 (教育課程)	① 生徒の主体性を育むことを第一に、学校生活全体で機会の創出を行う。
	② ICT活用やグループワーク等、生徒の主体的な学びにつながる創意工夫を行い、結果、生徒が主人公である授業を常態とする。
	③ 外部企業等と連携した探究活動を継続して実践し、学校外へ発信する機会を設けることで主体的な学びを推進していく。
進路指導 キャリア教育	④ 生徒が主体的に人生を切り拓くために最適な進路指導を生徒との共同プロジェクトとして行う。
	⑤ 点数や偏差値で自分の達成度を測るとともに、多様な情報と社会的見地を踏まえた、総合的な進路指導を行う。
	⑥ 大学受験のみならずその後の社会人としての生き方をイメージできるキャリア教育を行う。
生徒指導	⑦ 海高附属中生としてふさわしい身だしなみ、言動を自ら考え、実行を促す生徒指導を行う。
特別活動 キャリア・パスポートの活用	⑧ 生徒主体の、特に観る人の存在を意識した行事運営をサポートする。
	⑨ Classiなどのコミュニケーションツールを活用し、生徒のキャリア形成をサポートする。
教育環境整備	⑩ 教室のデザイン変更試行とその分析をして、有効な方向性と活用法を議論する。
地域との連携 (保護者、地域住民等)	⑪ 常総市役所、道の駅常総、各種企業との探究活動による連携を強化する。
	⑫ 文化部による地域の伝統芸能取材、伝統行事の定期戦実施、ボランティア活動で地域との連携を強化する。
保健管理 安全管理	⑬ スクールカウンセラーの配置、いじめ対策委員会の定期的な開催など常に情報を把握することで生徒理解と問題の早期発見解決に努める。
	⑭ 防災訓練、交通安全指導など各種講習の実施による生徒の危機管理意識づくりと、危機管理マニュアルの遵守と見直しにより学校安全を確保する。
研修 (資質向上の取組)	⑮ トップティーチャー模擬授業、コーチング研修、ダイバーシティ研修などオリジナルで必要なものをハイレベルに提供する。
	⑯ 先進校視察もより深い視察が可能なプログラムを先方と調整して行う。
情報提供 (広報、生徒募集)	⑰ 学校説明会、学校公開日に加え、塾などへの学校説明の定期的実施、ハイクオリティなPVの制作など広報を充実する。
	⑱ 課外イベントの開催、総合的な学習の時間の話題性をもとに広くマスメディアにもアプローチする。
コンプライアンス 働き方改革	⑲ コンプライアンス違反をゼロにする。
	⑳ 時差出勤の積極的な活用及び臨機応変な働き方の導入により教職員の負担を軽減する。
授業改善について	㉑ 第1回授業満足度調査において令和7年度第2回の全教員平均値である3.4を上回る、第2回では令和8年度第1回のスコアを上回ることを目指す。